

平成21年7月18日提出

記録者：協議会 事務局 鈴木慎太郎

The Real Japan いしかわプロジェクト推進協議会 第一回協議会 議事録

1、日 時 平成21年7月14日 15:00～16:00

2、場 所 金城樓 末広の間

3、出席者 会社名五十音順、敬称略

ANA クラウンプラザホテル金沢 総支配人 平八郎、あらや滔々庵 代表 永井隆幸、石川県 観光交流局交流政策課課長 橋本政人、石川県 商工労働部産業政策課課長 荒木太郎、株式会社加賀屋 おもてなし部宿泊課インバウンド担当副支配人 天野博康、金沢市 産業局担当部長兼商業振興課課長 桶川秀志、有限会社かよう亭 代表取締役社長 上口昌徳、株式会社金城樓 専務取締役 土屋兵衛、国土交通省 北陸信越運輸局企画観光部 国際観光課課長 佐々木紀彦、和倉温泉 多田屋 代表取締役社長 多田邦彦、ホテル日航金沢 副総支配人 三木淳、マゼラン・リゾーツ・アンド・トラスト株式会社 代表取締役社長 朽木浩志、メディアラグ株式会社 代表取締役 藤井雅俊、協議会 代表 高木慎一郎、事務局 事務局長 岩田幸二

* オブザーバー

株式会社アイサンクス 外商部営業課長 福田一正、石川県 観光交流局交流政策課 国際観光グループリーダー 松田 豊久、石川県 商工労働部産業政策課専門員 木村忠明、金沢市 産業局商業振興課主査 佐野宏昭、国土交通省 北陸信越運輸局企画観光部 国際観光課専門官 平山一良、和倉温泉 多田屋 副支配人 福原義明、The Real Japan いしかわプロジェクト推進協議会 監査役 鳥本俊和、事務局 企画・広報統括 鈴木慎太郎

4、議 題

開会挨拶

出席者紹介、自己紹介

昨年度の事業結果について

本年度の事業計画および目的

本年度の事業内容説明および経過報告

- ・海外富裕層受入拡大のための国際会議開催事業
- ・海外富裕層受入拡大のための研究会運営事業

閉会挨拶

以下、発言者名は組織名、苗字のみ。部署名、肩書き、敬称略。

開会挨拶

□主催者代表 協議会代表 高木慎一郎

皆さんのご協力の下に協議会を成功に導いていきたい。(協議会 高木)

□国土交通省北陸信越運輸局

昨年は協議会の事業運営が国際会議の開催を中心に全てが回り、その他の点に目が届いていなかった。本年は、協議会運営の目的に沿って、研究会の開催、国際会議の開催、会員倍増など、その他の点にも目を配って運営して欲しい。結果として、富裕層が世界から訪れ地方が元気になってくれればよい。個々の事業内容に関して、指示を出す立場にはないのが一つ一つ具現化されているかはチェックさせてもらう。元気再生事業は2ヵ年まで。来年度以降、自立できる体制を考えていって欲しい。(国土交通省 佐々木)

出席者自己紹介

□協議会 代表 高木慎一郎

今後とも宜しくお願いしたい。

□国土交通省 北陸信越運輸局企画観光部 国際観光課課長 佐々木紀彦

是非いいものを作って欲しい。中身と形の両方が揃うよう頑張ってもらいたい。

□石川県 商工労働部産業政策課課長 荒木太郎

この7月に石川に来てから見たいところを海外のお客様にも分ってもらいたい。

□石川県 観光交流局交流政策課課長 橋本政人

私どもの課は海外からの誘客を所管している。2014年の石川への宿泊者数50万という目標を達成すべく皆様の協力をお願いしたい。

□金沢市 産業局担当部長兼商業振興課課長 桶川秀志

金沢の素晴らしい素材を広く内外に有効に発信していきたい。

□株式会社金城樓 専務取締役 土屋兵衛

栄えある第一回協議会を金城樓で開催できたことに感謝している。明るい未来へ向かって皆さんと一緒にやっていきたい。

□メディアメディアラグ株式会社 代表取締役 藤井雅俊

昨年の国際会議のイベントプロデュースをキッカケに協議会に参加した。地域の元気再生および地域の素材を日本から発信していく事業作りを手伝う。トヨタ自動車の地域開発プログラムを全て開発している。またICTという仕組みを使って、レクサスのナビゲーション・ネットワークの開発を行っているので、石川を日本のよい町として世界を発信していきたい。

□マゼラン・リゾート・アンド・トラスト株式会社 代表取締役社長 朽木浩志

議論を活発にし、石川を世界に誇れるようアウトプット・インプットしていきたい。

□ あらや滔々庵 代表 永井隆幸

マーケットのトライアングルの頂点を高めることで、自然と裾野も広がっていくと考えている。今後ともご指導をお願いしたい。

□ ホテル日航金沢 副総支配人 三木淳

金沢の海と山と川が気に入って、東京から移り住みました。

□ ANA クラウンプラザホテル金沢 総支配人 平八郎

東京生まれ、東京育ちなので皆さんと違う視点で本物の石川を売り込んでいきたい。本物が分る人しか海外から石川へこない。

□ 株式会社加賀屋 おもてなし部宿泊課インバウンド担当副支配人 天野博康

地元の人も忘れがちな素材を少しでも海外の人へ発信していきたい。

□ 有限会社かよう亭 代表取締役社長 上口昌徳

地域全体の繁栄の結果として、個の繁栄。指導的な役割を果たす機関でありたいという夢がある。この研究会がそのような深い研究会になることを願っている。

□ 国土交通省 北陸信越運輸局企画観光部 国際観光課専門官 平山一良

国際会議を成功させてぜひ、世界へ金沢の文化を発信して欲しい。次年度以降 The Real Japan の活動がよりよいものになるには、研究会が大切だと考えている。

□ 石川県 商工労働部産業政策課専門員 木村忠明

石川を海外へ発信していくこのプロジェクトに全力で取り組んでいきたい。

□ 石川県 観光交流局交流政策課国際観光グループリーダー 松田 豊久

50 万人目標のため、一人でも多くの人に石川へ訪れてもらえるよう頑張っていきたい。

□ 金沢市 産業局商業振興課主査 佐野宏昭

宜しくをお願いしたい。

□ 和倉温泉 多田屋 副支配人 福原義明

皆さんと一緒に頑張っていきたい。

□ 株式会社アイサンクス 外商部営業課長 福田一正

東京で海外のお客様を中心にハイヤーサービスを提供している。今後どのように皆さんのサポートを出来るのかを考えさせていきたい。

□ The Real Japan いしかわプロジェクト推進協議会 監査役 鳥本俊和

宜しくをお願いしたい。

■ 協議会監査役の承認

■ 決定事項 ■

マゼラン・リゾーツ・アンド・トラスト株式会社 監査役 鳥本氏を全会一致で協議会監査役に承認。(協議会 高木)

昨年度の収支報告・今年度の事業の積算について

別紙（１）参照（事務局 岩田）

■ 昨年度事業結果の報告

別紙（２）参照（事務局 岩田）

本年度事業計画および目的

別紙（３）参照（事務局 岩田）

事業の柱は２つ。一つは国際会議。昨年度国際会議開催場所で課題に上がっていた収容人数・駐車場に関して、クリアできる音楽堂ホールにて本年度は開催予定。もう一つは、研究会。テーマに関しては今後皆さんの意見を吸い上げていく仕組みを作っていく。（事務局 岩田）

国際会議のゲストスピーカーに関しては、朽木と高木で現在動いている。当日の演出に関してはメディアラグの藤井氏に中心にお願いしている。研究会の内容に関しては、ようこそ Japan 大使の矢幡聡子さんに相談中。現在都内で３度のミーティングを持ち、２回目以降の研究会で何らかの形でご参加いただくこととなっている。国際会議は開催場所として音楽堂を仮押さえ。ゲストはホテル業界から世界的に有名なホテリエ１、２名。料理業界からミシュランスリースターシェフ１名を交渉中、確定次第報告する。（協議会 高木）

* メディアラグ藤井氏による事業草案の説明 別紙（４）参照

三年度を迎えていくことを考えると、去年は初回で会議を開催し今年は２年目。３年目の確実に事業化に向けてまず石川であるという理由を宣言しく、来年の事業化へ向けての採択である。決意表明するというのが１点。次に元気再生事業として何を外に伝えていかなければいけないのかというのが１点。ILLF というフォーラムとして何を建前として、国際会議を開催し広く研究会を開催していくのか。という１点の大きく３つのコンセプトが会議のプロデューサーとして必要。

基盤事業が石川県の中で行われていかなければいけない。食・産物・文化・歴史・自然・宿泊がおもてなしの論理の中で継続的に整備・保護・継承や育成という文化の中に作られていかなければいけないというのが石川の中で考えていく基盤事業。基盤事業を国際会議・研究会の中で研究し世界・国内へ情報事業として発信されていく大きくリアルな場として国際会議・研究会がある。これを出版物として去年行った。広くあまねく世界へと考えるとウェブやバーチャルという論理を今後どのようにやっていくのかというのは重要となる。地域の基盤事業を発展させていく事業とそれを伝達して海外・国内から人を呼ぶという発信事業。

何をもっておもてなしの論理とするのか、どこを石川は PR すべきなのかを確実にしなければ、はおもてなしというキーワードは各個人で意味が違ってしまう。どのように表現しどのように

伝えたいのかというのを抽出しイベントや事業化の方向性を作っていけないと、明確な会議のテーマや研究会の最終的なテーマや来年度の事業化のタスクが明確にならない。この会がゆくゆく石川の経済活動がインバウンド・アウトバウンドの論理で活性していくのが最終的な目標として事務局的な企画者としては考えている。このコンセプトを数週間から数ヶ月の間で研究会および事務局とすり合わせて、皆さんの意見を聞きながら国際会議の報告性とテーマ、招聘の方々にテーマを伝達し、会議が単なる会議ではなく、石川が世界に発信できる宣言ができるイベントの方向性にもっていきたい。そして明確なテーマのもとにイベントの開催の中身、会議の題目、研究会の方向性を皆さんの意見を吸い上げて、企画の立案に向かい、企画書として整備したい。

これが文脈論。どういう文脈を作りあげていけばこの会議もしくはイベントが成功していくのか。ということを考えていくとこの論理を地点的な定点地の問題、いわゆる石川の定点地の差別化と品質の問題にまず考える。それから地域の継承値の品質。いわゆる産物なのか伝統という歴史の上ののかったものなのか。最後に知識、皆さんが持っている知恵が重なることによっていしかわでしかできないという差別化を確実にしようという3つを明確にすることが宣言の骨子ではないかと考えている。

石川の人により創られ、守られ、継がれ、尚、進化し続ける「おもてなしの心と人」豊かな自然を育み、豊かな産物を生み出し、融和し続ける「おもてなしの里」と書いたがこれがおもてなしの県なのかおもてなしの地なのかというのが恐らく今回のテーマになっていくのではないかな。

例えば宿泊のおもてなしであれば研究会の論理からすると現状改善の抽出、改善施策、研究会が検討され、具体的な施策、問題はなんだろうそしてPR・IRへ入っていく論理が研究会のロジックである。

■ 出席者自己紹介

□ 和倉温泉 多田屋 代表取締役社長 多田邦彦

三年目の事業化に向けてそろそろ数字的な目標も明確にしながらみんなで頑張っていきたい。膝を付き合わせた会議もやっていけたらと考えている。

■ 質疑応答

- ・ 大きな柱としては、国際会議があるが実はコンセプトがない。国際会議・研究会だけにとられてはダメである。会議の仲間の倍増、ブックレットの検証、ブックレットを作っておもてなしの教育をするという話、広報宣伝が抜けている。足を地についてやるにはどうやっていけばよいのかを、もう少し議論すべきである。(国交省 佐々木)

- ・ 早急にまとめまして事務局より回答する（協議会 高木）
- ・ 先ほどの話にあった文化・伝統に関わる方々が協議会メンバーにいないが、これからなのか？（ホテル日航金沢 三木）
- ・ 随時新メンバーは募集している。協議会の会員の方には新しい会員にふさわしいかたがいたら紹介をお願いしたい。（協議会 高木）
- ・ 今年は藤井氏を加え、情報発信を世界・日本へ発信いける体制を築いく予定である（協議会 高木）
- ・ 今一度この組織が何を指向しているのかを共有すべきである。富裕層とは本物を分る人々で、日本らしい本物のものが分るひとを石川県に来てもらえる組織を目指すべきである。（有限会社かよう亭 上口）
- ・ 藤井氏のコンセプトをまとめた資料を媒体にして次回の協議会までにメンバー全体の意識共有を図れるようにする。（協議会 高木）

■ 新しい事務局の住所と地図の案内 別紙（５）参照

閉会挨拶

□ 直前代表 マゼラン・リゾート・アンド・トラスト株式会社 朽木浩志

去年の反省としては、時間の無い中で慣れない国際会議の運営で皆さんと議論するという時間が欠けていた。今後は永続的にこの活動を地域に根ざして反映させていくために、高木・小田代表のもとに活発な議論をしていきたい。

以上